

新潟県立長岡工業高等学校同窓会東京支部会報



東京支部だより

第 9 号

〒145-0064

東京都大田区上池台 2-1-5-505

発行人：支部会長 並木 政治

編 集：会報編集委員会

ご挨拶

同窓会東京支部 支部長 並木 政治 (28W)



同窓会東京支部会員の皆様にはお元気でお過ごしのことと拝察申し上げます。会員各位のご協力で、昨年の上野ラ・ベルオーラムでの総会及び懇親会は、和やかにまた盛大に開催されましたこと、会員各位のお蔭と深く感謝申し上げます。今年も上野ラ・ベルオーラムで7月2日(土)に開催されますので、会員の皆様が多数出席されますよう心からお待ちしています。

東京支部の運営も多くの問題を抱えています。毎年少しずつ減少する総会出席者の人数、また会費納入の減少等々頭の痛い問題であります。役員会で会費の値上げ等も話題に上がりましたが多数の役員が現状の千円で継続することで決まりました。役員一同が経費の削減に努力することになり、知恵と汗を出すことに意見の一致を見て自分達で出来ることは力を合わせてやることになり、昨年からの会員名簿の整理及び管理、案内状の作成、印刷、宛名書き封入、発送と役員の手で作業を行なった結果、経費の削減を成しとげました。役員諸氏の努力に深く感謝申し上げます。

尚、役員に対して会員の皆様からお褒めの言葉や励ましの言葉を多数頂いていることも、私どもの喜びとするところです。今後とも東京支部継続に会員各位のご支援ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

7月の総会では大勢の方とお会い出来るようお願いしています。最後に会員各位のご健勝をお祈り申し上げます。



ご挨拶

同窓会東京支部 副支部長 樋口 昭 (29E)



東日本巨大地震の被災者に心底よりお見舞い申し上げます。犠牲者のご冥福をお祈り申し上げます。早期の復興を念じます。原発事故の心配が 現実と成りました。修復作業員の使命感のご苦労を思い 心が痛みます。

「卯の花の匂ふ 垣根に ほととぎす早も来鳴きて」の唱歌を思い浮かぶ 爽やかな 初夏と成りました。会員各位におかれましては ご壮健のこととご推察申し上げます。

児童虐待、無差別殺傷事件の多発等 異常な世相を憂える昨今では有りますが、久々に「伊達直人」氏の慈善の行為は正に日本古来伝統文化そのものと 尊敬致します。「伊達直人」は「人に喜ばれ」「人に感謝し、感謝される」ことが 人生の価値観で有り 「心の幸せ」だと思います。価値観が多様化している昨今では有りますが、人生の後半の価値観は特に「良き仲間」に囲まれ「感謝し、感謝される」ことが「心の幸せ」ではないでしょうか。

東京支部同窓会の同好会は それぞれ活性化し楽しく活動しておりますが 新しい同好会の設立等 更に活発な活動を期待致します。 同窓会員の共通の価値観の醸成に 役員諸兄は組織的に鋭意 務めております。

本年も他に誇れる「長工同窓会東京支部総会」の時と成りました。 同窓の士が一堂に集い、往時往事を懐古し、語り合うことが価値観の共有出来るものと思います。 誇れる母校の創立 110 周年は もう来年です 本年は助走の年です。

本年も又 郷土芸能など楽しい催しものも計画され 郷土色豊かな総会と成ります。会員各位、お誘い合わせの上 多数のご出席をお願い致します。

私も副支部長として非力では有りますが、並木支部長を補佐し同窓会の発展に務めて参ります。会員諸兄の更なるご指導ご支援の程 宜しくお願い致します。

末筆ながら、会員各位の、益々のご健勝をご祈念申し上げます。

東京支部役員登場

懐古記

支部幹事 片桐謙一(31W)



南魚沼市(旧塩沢町)出身、紡織科(現テキスタイルデザイン科)卒です。当時の通学は下宿する者が多くいましたが、私は上越線上野発夜行列車で、塩沢発の1番電車で3年間通いました。車掌さんとも顔見知りになり、車内での面白い出来事が思い出されます。

入学当時は、学校の実習棟が建築中で、1年間見附市の県繊維試験場に隣接した分校に週1回通いました。部活では音楽部としては珍しいマンドリンクラブに先輩の勧めで入り、NHK新潟放送局での録音や、新潟博での舞台出演も経験しました。今は指導者顧問の先生が居られず、クラブ活動も存続していないようです。中学ではバスケをやっていたので、2年からバスケ部にも勧誘され、2足のワラジを履きました。今、バスケ部は、後輩たちの活躍でインターハイにも出場し、県下の強豪に数えられています。

横浜市に在職中は、体育指導委員として、地域の活動に28年間関わってきました。定年退職後も、自治会の役員として、がんばっています。

今後もよろしくお祈りします。



ジレンマ

支部幹事 宮田 隆 (32 E)



2月で72歳になった。この歳になると何故か古いものに違和感が無く、神社、仏閣などが身近に感じられる。向こうに近くなったせいか。連れ合いの母を看取ったので、菩提寺からは寺回りのお誘いが来る。お遍路、西国、坂東、秩父などの類である。のめり込むほどではないが、興味はある。秩父は半分回ったが、何かと野暮用があり後が続かない。

相方は律儀につき合っており、坂東を少々残すのみで朱印帳も着々と埋まっている。又小豆島のミニ遍路に出るらしい。残された者は否応なく日常最も大変な三食の算段をすることを余儀なくされる。不得意だから買食などで間に合わせる。幸い、今の所、歳なりに動けるので、自治会や公民館などに関わり忙しい。もう少し暇が欲しい思いはあるが、暇を持って余している同輩を見ると複雑な思いだ。忙しいことは生き甲斐に通ずる。

現世にもまだまだ未練があり彼岸には遠いこの頃である。ちなみに彼岸とは「煩惱を脱した悟りの境地」だそうだ。



お詫びと無念の思い

支部幹事 山川昭男 (33E)



3月11日の東北大地震でお亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げますとともに不自由な避難生活をされておられる方々にお見舞い申し上げます。

そして福島第一原発の事故により、多大な被害を蒙りました福島県はじめ近隣県の多数の皆様方に、かつて東京電力で水力発電に携わったOBとしてただただ深くお詫び申し上げます。原子力安全には万全を期していたと信じていただけに、如何に自然の猛威とはいえ未曾有の放射能汚染事故に拡大し、まだまだ予断を許さない現実にはまさに悪夢を見ている無念の思いで一杯です。高度成長時代の電力安定供給に日夜努め、お客様の信頼を長年かけて築いてきた信頼が一旦にもろくも崩れさり、無力感と寂寞とした気持ちは如何ともし難い思いです。そして現地で放射線物資の封じ込めに、極度の恐怖心を抱え決死の思いで放射能というバケモノと日夜戦っておられる多くの皆さん方に深く頭をさげ、門徒宗として毎朝ご無事をお祈りしております。

長工東京支部も少子高齢化の趨勢に逆らえず会員減少の中、支部幹事として手作り同窓会運営(経費削減)のお手伝いに努めたいと思っております。

会員だより(平成 22 年度 70 歳表彰者)



今年は、下記8名の方が70歳功労者表彰を受けられ、代表して小黒友勝様、大平悦三様のお二人にご執筆頂きました。誠におめでとうございました。これからも健康にご留意され、ますますのご活躍を祈念いたします。

昭和33年電気科卒 小黒友勝様、小林栄様、白井庄一郎様、柳秀次様、山川昭男様

昭和33年機械科卒 大平悦三様、太田伍郎様

昭和33年染織科卒 長橋久美夫様



70歳の現況報告

小黒 友勝 (33E)

2010年同窓会東京支部総会で、70歳を祝して戴いたので、現況報告いたします。

フルタイムの勤務から開放されたのを機に、仔犬を購入した。それから7年後の現在、運動好きのコーギー犬との朝晩の散歩のおかげで出不精の身ながら運動不足にならずに済んでいる。犬友達や散歩中に挨拶を交わす顔見知りも大勢になった。ところが、昨年、犬が会陰ヘルニアという厄介な病気で何度も手術を受ける事態になり、飼い主の生活もこれに振り回された一年となった。犬を通じて我が身の健康管理を再認識させられた次第である。退職後、一時体重増加や脂質異常となったが、家内の協力のおかげで幸い好転して小康状態を維持できており、趣味のゴルフやコーラス、蕎麦打ち、ボランティアのPC教室開設などを楽しんでいる。また、在職中は十分できなかった、先輩や友人とのゴルフ、お付き合いなどには極力出向くようにしている。昨年は特許を一件出願した。電気(マイクロ波)、機械、化学にまたがった内容で、環境問題が大きくなっている現在、複数の分野に関係した技術開発が面白い。



古希を迎えて

大平 悦三(33M)

昨年の長工東京支部の総会において、古希のお祝いを頂き誠にありがとうございました。顧みますと、光陰矢のごとの感が致します。

旧北魚沼郡の山里に生まれた私と長岡の出会いが昭和25年、兄と行った新潟県産業博覧会で、展示の試作テレビは様々な疑問を投げ掛けてくれました。高校では盛田校長先生を初め、諸先生から貴重な教を頂き、2,3年次には生徒研究があり、その後の進取の気性や実学の基となりました。校内では多くの友に恵まれました。校風は質実剛健ではありましたが、文化講演会も開かれ、全人教育を受けられたことに感謝しています。その後、無線通信・超音波の研究に入りますが超音波の基本はまさに長工で教えられた機械工学そのものであり、大学での学生指導にも大きな力となりました。新しい超音波応用として、当時は黎明期であった、工学と医学の融合した超音波医学の研究に専念し、現在に至っていますが、長工時代に培われた基礎の賜物と思っております。

最後に諸先生方、先輩、東京支部の皆様へ感謝し、ご健勝を祈ります。母校の隆盛と在校生には勇気と希望を持って未来を切り開き、夢を実現されるよう願っています。



東京支部ホームページ開設しています

広報 HP 担当理事 杉本 久栄 (35E)

長工同窓会東京支部の皆様、我が会のホームページをインターネットでぜひご覧ください。(長岡工業高校同窓会東京支部と検索あるいは下記URLを入力) このホームページは会員相互を結び情報交換の場として作成されています。

会員の皆様が開設しているホームページもリンクしていますので、これもぜひご覧になって下さい。皆様からの投稿も掲載しています。下記の連絡用メールアドレスまでふるって投稿下さい。



メールアドレスをご連絡頂いた方にはホームページ更新情報をメールでお知らせ致します。また、ホームページ作成並びに更新作業をお手伝いして頂ける方を募集しますので、下記までご連絡下さい。皆様のご連絡をお待ちしています。

ホームページURL ; <http://choko-tokyo.sakura.ne.jp/>

連絡用メールアドレス ; kjsugimoto@gmail.com



同好会活動報告

登山同好会

LMC 隊長 樋口 昭(29E)

リーダー 川澄 昂(38E)

2010 年

7 月 南アルプス縦走 北岳 (3193)
間岳 (3189) 塩見岳 (3047)
山小屋 2 泊 (6 人)

10 月 芋煮会 自炊テント合宿 (13 人)

12 月 忘年登山 七面山 (1989)
1700m 宿坊泊 朝夕読経修行
(9 人)



2011 年

1 月 新春登山 景信山～高尾山 登山の
安全祈願 下山後 新宿で新年会 (12 人)

2 月 雲竜溪谷 氷瀑ツアー 厳寒の溪谷は神秘的な青い氷柱に圧倒された。(5 人)

2 月 万座温泉スキー ゲレンデはパウダスノー標高 1800m の温泉と酒うれしい。(4 人)

4 月 鋸山 (長工新道) (12 人)



散歩クラブ

幹事 小島 洋 (37e)

今年の企画は、初夏の長雨、夏の酷暑、秋の台風接近、冬の酷寒と異常気象の連続で、昨年 5 月の第 8 回企画を実施したのみでした。

第 8 回は青梅の塩船観音の躑躅見物と、昭和の雰囲気が濃厚な青梅市街の散策を行いました。塩船観音は 1,300 年歴史を持つ古刹で、お寺の 3 方を山で囲まれ、山一面に躑躅が咲き乱れています。途中のスーパーでお弁当やお酒を調達し、躑躅に囲まれてお花見を行いました。お花見終了後、青梅市外に移動し、懐かしい映画の看板や、古い商店、中には丸いブラウン管を使用した初期のテレビキッドが飾られておりビックリしました。散歩終了後、青梅駅近くの居酒屋で反省会を行い、散会しました。



散歩クラブでは皆様の入会をお待ちしております。散歩の参加は自由で、都合のつく企画のみ参加できます。入会希望の方は幹事までご連絡ください。

e-mail : h-kojima@star.ocn.ne.jp



ジョギング同好会

世話役 成田 修 (44M)

ジョギング同好会、秋の恒例参加大会である横浜マラソン大会は例年より遅く、今年は12月5日(日)の開催でした。11月末に横浜でAPECが開催されたことにより、例年のスケジュールが変更されたものです。今年も並木支部長他、毎回参加して頂いている先輩諸氏の応援を頂きました。競技会の方は残念ながら小嶋様1名のみの参加でした。(世話役(成田)は若干申し込みが遅れたせいで競技参加が出来ませんでした。)

大会終了後は山下公園から関内駅前までゆっくりとウォーキングをし、関内駅前の雑居ビル2階の居酒屋で懇親会を開催しました。

次回は来年3月の三浦国際マラソン大会ですが、走る方の参加がもう少し増えるように努力したいと思います。応援参加につきましても、引き続きよろしくお願ひします。



支部運営の改革について

支部理事長 星野弘明(31C)

支部運営の改革の必要性

東京支部は以前各科別同窓会の連合体で運営していましたが、平成13年に各科を統合し、単一組織として運営を開始しました。その時、各科の運営費を拠出してもらい、支部会計としました。また、名簿管理や総会資料の作成や案内発送作業も各科で運営していたときに比べ、数倍になったので、外注業者に委託し、支部役員の負担を軽減しました。

しかしながら、5~6年を経過する中で、新規会員は入らず、年齢の高齢化により会員数は減り、収支のバランスが崩れて支部運営が困難となり、平成21年度総会で会費の値上げを提案して会員各位のご了解をいただきました。しかし、その後の役員会で多くの役員から『支部運営の簡素化』、『役員ボランティア』により出来るだけ会費値上げは回避したい、との意見が出され、改革を実施することに至りました。

改革の具体的作業

- ① 総会準備については、「支部だより」を除いた多くの印刷物は役員手持ちのパソコンで文書作成、印刷を行い、ほぼインク代、紙代の実費で可能となりました。また案内発送については多くの役員に集ってもらい、封筒詰め、投函を行いました。これにより、外注作業の件数、印刷費を削減しました。
- ② 名簿管理については、総括1名、会員を4グループに分け、グループ管理4名をおきました。総括は、名簿管理データの簡素化、グループ間のデータ通信方法の確立、グループデータの統合を主に作業しました。各グループは会員からの返信はがきを担当名簿にデータ入力を行い、グループ通信で総括に随時データを送付し、総括で最新データとして管理しました。これにより、外注でのデータ管理費、システム償却費、入力人件費を削減しました。
- ③ 「支部だより」の印刷はパソコンレベルでは困難のため、外注印刷に頼らざるを得ませんでした。このため、業者の変更、紙質の変更により大幅コストダウンに成功しました。

以上の作業変更により、大幅なコストダウンを実現しました。この作業に伴い、作業のための会議室使用料、作業のための昼食代、お茶代などこれまで発生していない費用の発生もありますが、大きな成果を得られたと考えます。会員の皆様にはこれらの改革をご理解頂き、一層の支部活動のご支援をお願い致します。



会員からの特別寄稿

川上卓蔵 (40e)

昆明市高新開発区在住



同窓のみなさま、初めまして昭和40年電子科を卒業しました川上卓蔵でございます。わたしは定年を迎え、縁がありまして、現在中国雲南省昆明市にある会社で技術顧問として働き、3年が過ぎ4年目に入ったところです。会社は光学製品製造、光学部品の製造しており、わたしの仕事は生産技術、品質管理、法的な規制対応などの管理を全体統括しています。昨年、中国と日本は尖閣諸島の問題で関係が悪化し、一部暴動まで起きてしまいましたが、ここ昆明市は安全で治安は良く、今のところ至って平穩に過ぎております。

今回は昆明について簡単な紹介をさせていただきたいと思います。雲南省は中国の最西南部に位置し、南はベトナム、ラオスと西はミャンマーと接しています。雲南省の首都が昆明市です。市内は海拔1900メートル、三方を山に囲まれ、南に滇池(テンチ)と呼ばれる大湖に面しています。南東100キロメートルの所に石林(写真1)というカルスト地形の景勝地があります。大小さまざまな奇岩が林立したまさに石の林です。



写真1. 石林の風景

昆明の気候は大体最低気温が4℃、最高気温が28℃、しかも湿度が低く通常はめったに汗をかくことはありません。昆明は日本の女子マラソンチームの高地トレーニングの地でもあり有名になりました。気候が良くて住みやすいので、昔から昆明は春の城と書いて「春城」と呼ばれています。

やはり同じ箸、漢字文化圏と言っても、そこには相当なカルチャーの違いがあり困惑することも多々あります。例えば、わたしたちは中国の国は 儒教の国で、考え方、行動なども同じだと考える人が多いと思うのですが、とんでもありません。勝手にそう思い込んでいるだけなのです。箸でちゃんと食べているのかと思うと、ホーローどんぶりの中にご飯とおかずを入れて、スプーンでカチャカチャいわせながら、玄関で腰を下ろして食べている姿をよく見かけます。これは、わたしはきちんと飯が食えているのだとアピールしているのもあるそうです。何千年という長い間、支配者に搾取されてきた歴史は、食うことだけは今も変わってないように感じられます。中国の人は、メンツを非常に重要視します。周りの人間関係を信頼し大切にしてみんなは行動をしているのが実態です。人間関係でも、付き合い方など多くの違いを認識し、相手を理解しなくてはなりません。一般の中国の人は日本に対して好意的であり、親切であります。

写真2. は金馬・碧鶏坊という昆明市内にある有名な坊です。明代に創建されて400年の歴史があります。



写真2. 金馬・碧鶏坊

民族の特色が目立ち、昆明のシンボルになっています。

ある時、夕日の光が碧鶏坊を照らした影と、月の光が金馬坊(後側)を照らした影が互いに交わり離れていく、「金碧交輝」という奇観な現象が60年に一回起こるとされている有名な坊です。

写真3. は西山の絶壁に貼りつくように龍門石窟が見えます。龍門石窟から見下ろす眺望は素晴らしいものがあります。石窟は清代のもので、神のお告げを受けた僧が一人で70年余をかけて作り上げたと言われています。石窟の入り口に龍門と刻まれた下にちょっと出っ張った丸い玉があり、この玉に触ると出世すると言われていたところ。登竜門の語源になったところです。

このような昆明で実際に3年間生活し、その中でカルチャーショックを私なりに「中国滞在記」と言う本にまとめて見ましたので、興味のある方は一読をお願いいたします。

申し込みは、FAXにてお願いいたします。

電話 048-722-2847

FAX 同上

税込みで1500円+送料(290ページ)



写真3. 龍門の風景



平成 22 年度総会報告(写真集)

平成 22 年 7 月 3 日



受付風景



会場 ラ・バル・オーラム



支部長挨拶



来賓祝辞



副支部長挨拶



懇談風景



懇談風景



若波会による佐渡おけさ、相川音頭



皆も一緒に輪になって



アトラクション (左) ミニコンサート中の綾乃ひびきさん (右) 支部男声合唱団と共演



住所不明者の情報収集のお願い



昨年の総会・懇親会に登録会員の皆様にご案内を発送しましたが、下記2名の案内状が宛先不明で戻ってきました。皆様の中で心当たりの方がおられましたら、長工同窓会東京支部役員あるいは名簿担当までご連絡ください。

No.	卒業年度	科別	氏名	本部コード	No.	卒業年度	科別	氏名	本部コード
1	昭23	化学	松野 孝夫	S23C0210	2	昭43	機械	原 順松	S43M029A

名簿担当：〒261-0026 千葉市美浜区幕張西3-5-9-204 大関 稔 Tel: 043-272-8897 Email: ozeki@cba.att.ne.jp



- ◆ 2011年3月11日、東日本巨大地震と大津波が発生しました。有史以来最大の被害で、被災者には心からのお見舞いを申し上げます。
- ◆ 地震、大津波は天災と言えましょう。しかし、原発事故は人災としか思えません。あれほど『安全』と言いながら、これだけの事故を起こしてしまいました。被爆国日本の政府・企業が放射性物質を全世界に拡散させてしまいました。猛省して、安心なエネルギーの再構築を切望します。
- ◆ しかしながら、日本各地からの支援、世界各国からの支援はありがたく、人の温かさを知らされました。我々も非力ながら、出来る範囲での支援をしていきたいと思います。

同窓会活性化のため、編集や記事に関する皆さんのコメントをお待ちします。(編集委員)

編集委員コメント宛先：小島 洋 (TEL & FAX: 042-648-7250, Eメール h-kojima@star.ocn.ne.jp)